

## 松岡良司松岡水産社長に聞く

食料安全保障の観点から、食料自給率向上の議論が活発になってきた。自給率低下は海外に依存した食料供給体制が要因。1960年に79%だった自給率は2006年には39%まで低下した。自給率向上のフアクターとして、「朝食」が注目されている。朝食に力を入れる千葉県銚子市の松岡良司松岡水産社長に聞いた。

国内の消費構造を分析すると、ハンバーガーを代表するジャンクフードが氾濫（はんらん）している。ジャンクフードの材料の多くは、海外で生産されたものを使用しているのが現状。低価格と手軽さから消費が拡大する中で、国内1次産業にとつて恩恵は全く受けていない。ジャンクフードの消費が今後増加するとするならば、1次産業の疲弊はますます深刻化するだろう。このような状況に歯止めをかけるためにも「朝食」の可能性を秘めた存在。国内の朝食マーケット規模は政府試算によると10兆、15兆円と非常に大きなマーケットとなっている。なにより朝食を摂取することは、身体に

## 自給率向上に「朝食」 疲弊する1次産業



松岡良司社長



和朝食向けに簡便商材を提案

対して良い機能を持つ。理想的朝食メニューとして「ご飯、みそ汁、焼き魚を挙げる人が多

しかし、朝食のメニューは粥やハム、ソーなど代表される洋食メニュー。和朝でも潜在的には米食の食の方が、栄養面では需要が強いこと裏付けられている。消費者にとつて高い効果を持つ和朝食だからこそ、和朝食マーケットの拡大が急がれる。

### 簡便商材で 市場拡大を

当社では消費者志向に合わせた商品開発を進めてきた。湯煎で食

そもそも和朝食の拡大が、自給率向上へと進むことができるかという点では米食が中心という点では米食が中心の役割を果たす。洋風の朝食は、魚との相性がイマイチだった。米食は魚、肉、野菜間を合わせ合わせる相性が良い。さらに食ハム・ソーは、また案じていきたい。

はパンと頭だけといっ (東京支社・佐々木信)

た少ない品数から、副菜の品数がも期待できる。副菜の増加がひいては国内農産物の消費増加にもつながるだろう。

ある調査では会社員への朝食についてのアンケート